

俳句を楽しむ会「かわせみ会」

俳句は世界で一番短い詩だといわれています。わづか17文字で自然会の花鳥風月を愛で、日常生活の喜怒哀楽などを表現し、人々を感動させる日本文化の素晴らしい宝物なのです。

- ◆ **俳句を楽しむ会** ⇒ 設立は平成29年（2017年）当時テレビの影響か俳句がブームとなり、会員よりOB会に同好会を創って欲しいとの要望により設立した
- ◆ **「かわせみ会」とは** ⇒ 「かわせみ」は枚方市の「市の鳥」とされており、清らかな水辺を好み、小魚が住める河川や池などに生息し、四季を通じ色鮮やかで美しい姿は俳句の題材となるのではと思い、「かわせみ会」と名付けた。
- ◆ **活動の目的と狙い** ⇒ OB会員の健康や認知機能の維持、向上を狙って俳句の創作を通じて脳の活性化を図り、認知症予防を目的とした活動としている
- ◆ **運営のやり方** ⇒ ① 毎月第四木曜日開催13:00～ ② 季語は開催当月のもの ③ 一人3句提出 ④ 無記名の提出句の中から、出席者が3句を選句し、**選句**人数の多さで評価する ⑤ 提出全句について詠句者名を明かし「詠んだ気持ち」や改善点等を話し合う
- ◆ **会員数** ⇒ 16名（女性2名 男性14名） 創設時6名から徐々に増えている
リーダ；鳥越 世話役；東、**奥** 担当幹事；山下、園田
会員；林、吉岡、奥野、大西、豊村、**久保**、由比浜、高橋、

◆ 稚拙なれど過去の選句

開催時の状況写真



- ・ 万緑や潜る丹塗りの大鳥居
- ・ 暴れ梅雨畝間のダム湖草溺れ
- ・ 大原に木漏れ日の路若楓
- ・ 車椅子押す足止めて観る菖蒲
- ・ 紫陽花や道行く人と眺め合い
- ・ 紅葉見ず先逝く友に月翳り
- ・ 口広げ滴り落ちる柿の汁
- ・ 夕陽射し刈田の跡や一休み
- ・ 新緑と苔が際立つ石灯笼

- ・ 鐘の音の闇をつなぎて去年今年
- ・ 風鈴が鳴りて故郷の風来たる
- ・ 独り居の日課となりぬ昼寝ぐせ
- ・ 鈴虫の鳴き疲れしを癒す闇
- ・ 山茶花や一輪二輪が十重二十重
- ・ 行く秋や張り紙一つ店仕舞い
- ・ 万緑の深みに見合う朱の鳥居
- ・ 墓参り御巢鷹山にも手を合わせ
- ・ 軒下に寂しく垂れる鯉のぼり



同好会へのお誘いと 会員さんからの投句へのお願い！

全くの素人からスタートした俳句同好会ですが、今日までの経験を積み重ねて来たものの、未だ稚拙な句しか詠めません。脳トレが目的としたものでそれなりの効果は出ているものと思っています。会員の皆さん！一緒に脳トレしませんか！興味ある方、趣味でやられている方投句下さい